

電気回路の設計技術者である宇佐美通さん(50)は昨年12月、20年近く勤務した東京の派遣会社を辞め、電子部品メーカーの共和電機工業(金沢市)にUターン就職した。生まれも育ちも東京で、石川には縁もゆかりもなかったが、自然豊かな環境にほれ込み、転職を決断した。

今は津幡町で購入した住宅に妻と小学3、4年の娘2人と暮らす。朝5時に起きると鳥のさえずりが響き、仕事を終えて家路につくころには近所の田んぼからカエルの鳴き声が聞こえてくる。

「東京はモノがあふれて便利だったけど、土のにおいかなかった。石川で半年を過ごし、骨をうつめる覚悟が固まった」。前職に比べると収入は減った。それでも宇佐美さんは、物価が安く生活環境も整った地方のほうが格段に暮らしやすいと感じている。

### 電機業界支える

宇佐美さんは派遣社員として、多くの大手電機メーカーを渡り歩いてきた。パイオニア、三洋電機などを経て、昨年まで12年間勤めたニコンでは、デジタル一眼レフカメラの設計を任されていた。長年、

# 大手の技術 北陸で生かす

日本の電機業界を支えてきた技術者である。

現在の勤め先である共和電機工業は津田駒工業(金沢市)の子会社に当たり、織機や産業機械に組み込まれる制御装置の製造が主要事業だ。

同社の杉村昌則総務部長は、「経験豊富で若手を引っ張る力がある技術者は、のどから手が出るほどほしかった」と語り、Uターンの中途採用を決めた理由を明かす。

さまざまなメーカーで得たノウハウを社員に伝えてもらえば、会社全体の技術レベルが向上するとみている。

丸井織物(中能登町)も今年3月、大手事務機器メーカー、リコーに勤めていた合田昇平さん(30)に金沢市出身を採用した。リコーでプリンターの材料開発を担当していた経験を生かし、産業資材部門の強化につなげる方針という。石川にUターン就職した合田

さんは「長男の誕生をきっかけに、子育てしやすいふるさとに戻った。地元の産業に少しでも役立ちたい」と意欲をみせている。

### 転職フェアに出展

石川県鉄工機電協会が実施したDI調査(2015年1〜3月期)によると、企業経営上の悩みのうち「人材不足」という回答が「受注の不安定」に続き2番目に多かった。地方の製造業にとって、自社の強みを伸ばす技術者の確保は、大きな課題となっている。優秀な人材を首都圏から北陸へと呼び込むため、官民の

## 人材確保へ官民連携

連携が強まってきた。鉄工機電協会など業界4団体と石川県は1月、都内で開かれた転職フェアに初めて共同出展し、北陸新幹線開業でアクセスが向上した石川で働くメリットを訴えた。今年度は出展回数を4回に増やし、東京、名古屋などのイベントに参加する予定だ。



Uターン就職した電子部品メーカーで設計業務に携わる宇佐美さん(金沢市内)

U、Iターン人材の確保は定住人口拡大だけでなく、首都圏の大手企業の技術やノウハウが北陸の企業で生かされ、地場産業が活性化する効果も期待できるとした。